



巻頭言

インターナショナルオフィス長 徳田 雅明

インターナショナルオフィスが発足して8年になります。各部局での国際関連事業とタイアップして「香川大学にとって必要なグローバル化」を目指していきます。教育、研究、運営・体制、地域貢献の全てにおいて、グローバル化が必要になっています。特に「4&1プラン」は香川大学のグローバル化を象徴した目標です。平成25年にスタートし、平成35年までに、年間の留学生受け入れ400人、日本人学生の中長期派遣100人を旨とするプログラムです。日常の学園生活そのものがグローバルであることを実現していきます。

インターナショナルオフィスが取り組んでいる事業を紹介させていただきます。

1) 渡日生活支援事業＝留学生受入促進

- ・留学生受け入れのための環境の整備＝平成28年4月には上之町国際寮(日本人学生と留学生との混住寮)をスタートしました。英語の文書の整理や奨学金事業も展開しています。
- ・留学生生活サポーター&チューターの配置＝留学生の生活や学業のスタートアップの支援をする制度です。各部局に配置しています。
- ・日本語授業等の開講＝さまざまなレベルでの日本語授業を提供しています。

2) 海外派遣支援事業＝日本人学生留学促進

- ・外国人非常勤教員の活用＝2名のnativeの教員がインターナショナルオフィスに参画し、グローバル環境の推進のために活躍しています。
- ・English Caféなど多言語・異文化交流の場の設定＝English Caféでは各種のクラス開講やイベント開催をして、日本人学生や留学生の交流の場となっています。
- ・各種の留学プログラム奨学金の積極的な獲得・活用＝トビタテ！留学JAPAN、JASSO海外留学支援制度等を獲得し留学を後押ししていきます。

3) 海外拠点交流戦略展開事業

- ・協定校との関係強化＝ASEAN・中韓台の協定校との関係を強化し、受け入れ・派遣の増加を目指していきます。
- ・拠点形成事業の展開＝海外拠点の見直しをし戦略的な展開により充実化を図ります。
- ・広報活動の強化＝ホームページやオフィスジャーナル等で活動を外部に発信します。

4) 地域の国際化及びグローバル人材育成事業

- ・グローバル人材定着化のための事業の展開＝グローバル感覚を持ちローカルに活躍できる人材の地元への就職を促進します。地域の自治体や企業との連携強化を図ります。
- ・地域の国際化への貢献＝地域の交流団体等と連携をして共同でイベントを開催したり、留学生が地域で活動することで、地域の国際化へのお手伝いをさせていただきます。

インターナショナルオフィスは以上のような活動を展開しています。皆様にもっと近い存在になり、頼っていただけるよう頑張ります。

最後に、自治体や政府の諸機関・諸団体、地域の国際交流団体や企業、ホームステイ先のご家族など、枚挙にいとまのないほどの多くの皆様に協力をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも更なるご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



<国際交流活性化の推進>

学術交流協定締結調印

- 2017年 3月29日 本学とセントピーターズバーグ大学との学術交流協定の更新
2017年 4月28日 本学とエッカード大学との学術交流協定の締結
2017年 5月24日 本学とガジャマダ大学との学術交流協定に基づく学生交流に関する実施細則の締結
2017年 5月16日 本学経済学部とチェンマイ大学経済学部の学術交流協定の更新
2017年 8月 1日 本学と中国文化大学との学術交流協定の締結
2017年 8月16日 本学と台湾中央気象局との科学交流協定の締結
2017年 8月18日 本学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構と国立中正大学地球環境学科系との覚書の締結

学生等によるインターナショナルオフィス表敬訪問



シンガポール・南洋理工学院
学生ら

3月21日(火)、南洋理工学院の教員2名、学生16名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。



アメリカ合衆国・エッカード大学
学生・教員ら

5月30日(火)、エッカード大学の学生6名、教員2名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。



フランス・トゥール大学
プロワ技術短期大学部教授ら

6月19日(月)、トゥール大学プロワ技術短期大学部のPatrick Laffez 教授ら2名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。



JSTさくらサイエンスプランに
招へいされた研究者ら

7月18日(火)、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」により招へいされた研究者ら7名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。



インドネシア・ディボネゴロ大学
(Diponegoro University)学長ほか教職員

7月27日(木)、インドネシアのディボネゴロ大学学長ら8名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。



「食品の安全・機能解析教育に関する
東南アジア等の大学間体験学習型
プログラム」参加学生ら

8月22日(火)、農学部で実施の「食品の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」に参加する、海外協定校等に在籍の外国人学生25名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。



SUIJIサービスマーケティングの学生

8月31日(木)、農学部で実施の「2017 SUIJI国内サービスマーケティング」に参加している日本人学生及びインドネシアの学生17名が、インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。

<学生対象行事>

平成29年度春季ガイダンスの報告

平成29年度春季、13か国から70名の新入留學生が入学してきました。関連するガイダンスは次の日程で実施されました。

3月27日(月) 屋島留學生会館のガイダンス

4月5日(水) 花園寮のガイダンス、全学新入留學生を対象とするガイダンスと歓迎会

4月6日(木) 上之町国際寮のガイダンス

寮のガイダンスは、例年と同様に、新旧入居者全員の出席を求めました。全学新入留學生対象のガイダンスは、本学に関わる事項に加えて、高松北警察署による法令遵守のガイダンスも行われました。

新入留學生の歓迎会には、新入・在学留學生をはじめ、新入留學生のサポーター、地元の国際交流団体関係者等、およそ150名が参加しました。

(インターナショナルオフィス ロン・リム)



歓迎会開会



恒例のビンゴゲーム

第1回課外教育行事

平成29年5月20日(土)、今年度1回目の課外教育行事を実施しました。今回の見学・研修先は東かがわ市でした。

見学先の受入れ可能人数などの制限から、今回は2つのグループに分かれて実施しました。1班は株式会社スワニーで、同社が様々な工夫をこらしている手袋、バッグ、車いすに直接触れ、説明を受けました。その後マーレリッコでハマチのえさやりと解体ショーを行い、試食をしました。最後に讃州井筒屋敷の見学及び和三盆型抜き体験をしました。2班はつばさキャビアセンターでキャビアに関する知識を学び、実際に触れるなどの貴重な体験もしました。その後1班同様、讃州井筒屋敷とマーレリッコを訪問しました。

本行事には、せっかく香川に来た留學生には、香川のことを学び、実体験して欲しいという狙いが含まれています。今後も、しっかりと学びの機会を提供していきたいと思っております。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



スワニーの製品を体験



手袋資料館での説明

平成29年度春期さぬきプログラム

平成29年度も、春期さぬきプログラムの学生を受入れました。本プログラムは今回が第6回目の受入れとなりますが、最大の特徴は、幸運にもJASSOの奨学金(海外留学支援制度)を得ることができたため、多くの留学生を受入れることができたことです。合計人数は19で、これらの学生全てが上記奨学金を受給対象ではありませんが、受入れ国も6(従来のブルネイ、タイに加え、カンボジア、インドネシア、台湾、ドイツ)に増えるなど、大きな効果がありました。

上記奨学金にはプログラム開始時期に制約があるため、平成29年度の授業開始前の3月に渡日してもらい、平成29年3月27日(月)にプログラムの開講式を実施しました。その後、授業開始までには、お互いを知るためのセッションや、日本や香川の文化に親しんでもらうための見学(八幡神社や県立ミュージアム等)を実施し、そこで学んだことをグループ発表してもらいました。

その後、日本語(1名を除き初級)、初級日本事情、プロジェクトさぬき等の授業に加え、今回は日本料理や日本の歌などもじっくり学んでもらいました。初級日本語クラスは18名が参加していたため、例年よりだいぶ賑やかなものとなりました。

プログラム期間中、これらの学生はホームビジットや課外教育行事等にも参加し、授業以外からもしっかり日本について学習していました。さらに今回から日本人学生とともに学ぶこととなった「プロジェクトさぬき」においては、リーダーシップを発揮し本学の日本人学生の国際感覚の涵養に貢献していました。

7月26日(水)に実施された修了式では、テーマごとに分かれ、1人2分間のスピーチを披露しました。修了式後の送別会では、授業において練習した歌も披露し、大変場を盛り上げてくれました。これらの会には、お世話になっている地域の皆様もご参加くださり、留学生ともども大変感謝しております。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今回はいくつかの幸運が重なってこれだけ多くの学生を受入れることができましたが、次期以降も少しでもこの状況に近づけるようにするとともに、内容的にもプログラムをより充実させていきたいと考えております。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



栗林公園で花見



日本料理の授業



近隣保育所でよさこいを披露



修了式



送別会

平成29年度(夏季)海外渡航者向け危機管理セミナーを開催

平成29年8月4日(金)、平成29年度夏季危機管理セミナーを開催し、全キャンパスで約50名が参加しました。本セミナーは、今夏に海外渡航を予定している学生、引率教職員を主な対象として、海外へ渡航する際のリスクとその回避方法等について学ぶもので、専門的知見を有する講師としてJ&Jヒューマンソリューションズ社の関口久仁子氏をお招きしました。

ロン留学生センター長の開会の挨拶に続いて、関口氏から「海外研修/留学生のための海外リスクマネジメント」の演題で講演がありました。国・地域別に特に発生しうるリスクを最新の事例とともに紹介していただいたことで、参加者からは「事例紹介が多く、具体的な対処方法が分かり勉強になった」等の感想がありました。講演に続いて、ジェイアイ傷害火災保険株式会社中国四国支店の武藤一道氏からは、本学日本人留学生の多くが加入するジェイアイ傷害火災保険の窓口対応等のサービスについてご説明いただきました。今後も本学の学生及び教職員の海外渡航における危機管理意識の向上を目指し、定期的にセミナーを開催する予定です。

(インターナショナルオフィス 植村友香子・国際グループ 福家徹也)



ロン留学生センター長の挨拶



海外での事例や、渡航先国ごとのリスク説明

留学生採用支援セミナー&交流会

平成29年8月4日(金)、香川県留学生等国際交流連絡協議会と共催し、企業の留学生採用に資することを目的に留学生採用支援セミナー&交流会を実施しました。

3部構成とし、第1部では高松入国管理局より河村順一首席審査官をお迎えし、就労ビザについてご講演をいただき、特に新設された「介護」については、申請にあたり注意すべき点を中心に、詳しくご説明いただきました。第2部では行政書士の山田総子氏より、就労ビザへの切り替え手続きについてご講演いただきました。

第3部は交流会とし、日本での就職を希望する留学生と企業経営者及び人事担当者、学校関係者が交流し、情報交換をしました。これを機に多くの企業に留学生を受け入れていただけることを望みます。

(国際グループ 浅野文恵)



河村氏による講演の様子



交流会の様子

オープンキャンパス2017

平成29年8月8日(火)、香川大学オープンキャンパス2017(幸町キャンパス)において、本学における国際交流活動についての紹介イベントをEnglish Caféで実施しました。訪れた学生等に対して、インターナショナルオフィス教員によるCaféでの英語レッスンや外国人留学生との交流活動、施設の紹介のほか、教職員による本学の海外留学プログラムや留学のための奨学金についての個別相談も行いました。
(国際グループ 福家徹也)



海外留学プログラムの紹介の様子

ランチプレゼンテーション会の報告

平成29年度前期、ランチプレゼンテーション会は、合計12回行われました。今回の12回の発表は、平成23年度に開始して以来、第84回から第95回の発表となります。発表者数は留学生が19名で、日本人学生は4名でした。留学生の国籍は6つで、カンボジア、タイ、インドネシア、台湾、ブルネイ、ドイツでした。留学生によるプレゼンテーションのテーマはほとんどが自分の国の紹介でした。日本人学生は「水泳」と「宅配サービス」、「和食」に関するテーマでした。毎回平均の参加者数は28名で、合計参加者数は346名でした。

(インターナショナルオフィス ロン・リム)



ランチプレゼンテーションの様子

<プログラム紹介>

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム 「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」

①派遣留学生帰国報告会を開催

平成29年6月26日(水)に派遣留学生帰国報告会を開催しました。欧米、アジア、アフリカ等様々な地域において、教育、ビジネス、農業、医療といった多様な領域の活動を行い帰国した6名が、自らの留学を通して得た学びや今後香川でどのように活動していくかについて発表し、川田浩司香川県審議監を始め、地域企業、県内の高等教育機関等から約50人が参加しました。



学生の留学活動報告

②第7期派遣留学生事前オリエンテーションを実施

平成29年7月23日(日)に第7期生事前オリエンテーションを開催しました。「学外講師による講義」「派遣留学生たちのプレゼンテーション」「先輩派遣留学生からのアドバイス」という3部構成で、講師として香川県県産品振興課の藤本圭一氏とJR四国・地域連携室の難波恵美氏をお招きしました。学生は「うちわ」「手袋」「屋島」という香川県に関するテーマについて事前に調査した結果について、英語でプレゼンテーションを行いました。講義でもプレゼンテーションでも、活発な意見交換が行われ、地域とのつながりを強めつつ留学の意義を問い直す機会となりました。



ディスカッションの様子

③第7期派遣留学生壮行会を開催

平成29年8月9日(水)、第7期派遣留学生壮行会を開催しました。浜田恵造香川県地域人材育成コース協議会会長(香川県知事)、長尾省吾学長を始め、文部科学省、地域企業、県内の高等教育機関等から約50人が参加し、香川県全体で派遣留学生を応援し、地域を盛り上げていくイベントとなりました。派遣留学生は支援企業や、過去にトビタテ！留学JAPANに採用されて留学した学生、うどん県副知事の本内晶子さんから激励を受けるとともに、留学で何を学び、どう香川に貢献するかについて決意表明しました。また、本内さんからは、派遣留学生が留学や県内インターンシップを通して香川と世界をつなぐ役割を果たすことを期待して「Student Ambassador of Kagawa」の称号の付与もありました。派遣留学生以外の参加者の中には今後留学を希望している学生もあり、よい刺激を受けたようです。

(インターナショナルオフィス 植村友香子・国際グループ 福家徹也)



地域企業関係者等を交えての記念撮影

全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」 (台湾における研修)の実施

インターナショナルオフィスは、全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」を提供しています。今年度は、近年本学が連携を強化しつつある、台湾の国立嘉義大学の協力を得て、初めて同大学において研修を実施しました。

今回の参加者は6期生になり、法学部から1名、教育学部から2名、工学部から2名の計5名で、1名のみ2年生で他は1年生でした。台湾到着は平成29年8月19日(土)で、8月21日(月)に嘉義市に移動して研修を開始しました。中国語授業や台湾文化に関する授業、各種フィールド学習、現地の企業等見学などの多様な内容が含まれていました。同大学における研修は9月1日(金)に、研修生による最終発表をもって終了し、台北に移動後、9月3日(日)に帰国しました。実施に際しては、同大学の教職員の皆様に加え、台湾人の学生2名と正規生として留学している2名の日本人学生がバディーとして手厚い支援を提供してくれました。本研修における体験が、より長期の留学につながり、本学と同大学との交流が今後より一層強化されることを期待しています。(インターナショナルオフィス 高水 徹)



<外国人留学生リクルーティング活動>

各種進学説明会

インターナショナルオフィスは、留学生のリクルーティング活動および広報活動として、各種説明会に参加しています。説明会には JASSO 主催の大規模なもの以外にも、民間企業主催のものもあり、会場はイベントホールや日本語学校の校内などがあります。

4月から7月にかけて、本学は岡山で3回、大阪で2回、神戸で1回、高松で2回の説明会に参加しました。学部への入学を志望している留学生や、大学院への進学を志望している留学生が、今年度も多数本学ブースを訪れ、主に入試制度や奨学金について質問しました。例年、これらの説明会にはインターナショナルオフィス教員や国際グループのスタッフが参加していますが、今年度の JASSO 主催「外国人学生のための進学説明会」には、教育学部の山下明昭教授も参加しました。優秀で意欲のある留学生が、進学先として本学を選択してくれることを願っています。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)

開催日	開催地	備考
4月19日(水)	岡山	
6月1日(木)	岡山	
6月1日(木)	高松	
6月10日(土)	大阪	日本語学校の教員が対象
7月5日(水)	高松	
7月6日(木)	岡山	
7月15日(土)	大阪	JASSO主催 「外国人学生のための進学説明会」
7月20日(木)	神戸	



説明する山下教授

<地域との交流活動>

留学生宿舎での交流会

本学の留学生宿舎では、毎年、入居学生と寮近隣の方々との交流を図るため、また、日本文化を体験することを目的として、「交流会」(そうめん流し)を実施しています。

今年度は天候に恵まれ、平成29年6月24日(土)に花園寮で、7月8日(土)に上之町国際寮で、7月22日(土)に留学生会館で3寮とも実施することができました。

花園寮は、平成25年度より民間から借り上げている寮で、14名の留学生と1名の日本人学生が入居しています。近隣から5名のお客様をお迎えし、18名で実施しました。

上之町国際寮は留学生の支援と日本人学生の国際性を涵養することを目的に、留学生と日本人学生が二人で一戸をシェアする混住寮として、平成28年度より民間から借り上げている寮です。交流会は昨年度に続き、2回目の実施となりました。寮生らは寮内を清掃し、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励みました。近隣からは上之町自治会長様を始めとする51名の方と、学生、教職員あわせて75名が参加しました。そうめんを食べながら交流したり、竹の横に設置したビニールプールで子どもたちと寮生が水鉄砲で交流したりと、大変盛り上がりました。

留学生会館は男子寮と隣接していることもあり、近隣の地域の方々に加えて男子寮の学生も参加しました。また、今年度は県立三木高等学校からインターンシップ学生がスタッフとして参加し、近隣からの35名のお客様を含む総勢85名で実施しました。そうめん流しでは会話が弾み、食後には留学生と地域の子もたちが水鉄砲を共に楽しみ、大いに盛り上がりました。

このような交流の機会を通して、地域の方々との円滑なコミュニケーションを図り、今後も、お互いに気持ちよく生活できる環境を整えていきたいと思えます。

(国際グループ 浅野文恵)



上之町国際寮での様子



留学生会館での集合写真

<他機関との連携活動>

JICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠) カンボジア国「カンダルスタン郡の衛生教育改善のための 学校保健体制の構築プロジェクト」始動

本学が香川県と共に提案し、採択された標記プロジェクトは本年2月より開始準備を進めてきましたが、7月22日現地において、徳田雅明副学長（インターナショナルオフィス長）、清水裕子プロジェクトマネージャー（医学部慢性期成人看護学教授）、カンボジア側クム・ラチャナ（His Ex. Serei Chumneas）教育省次官、カンダール州 Mrs. Tes Sopheap 副知事同席のもと、プロジェクトの開講式が執り行われました。これに先立ち His Ex. Hang Chuon Naron 大臣、Her Ex. Kim Sethany 長官と面談を行い、協力関係を確認しました。日本からは JICA 四国高橋支部長らも出席しました。

本プロジェクトでは、カンボジア国内の学校に保健室を設置して、児童・生徒に対する保健衛生教育の充実を図ることを目的としており、今後カンボジア教育省と学校指導者育成のための研修、モデルトイレ・手洗い場の設置、衛生教育教材の作成など様々な対策を行っていく予定です。早速、本年10月にはカンボジア教育省長官他政府関係者およびカンダルスタン郡小学校校長・教員が2班に分かれて香川大学を訪問し、研修を行うことになっています。

（インターナショナルオフィス 野田久尚）



教育省 His Ex. Hang Chuon Naron 大臣(右から3人目)および Her Ex. Kim Sethany 長官(右から2人目)、Dr. So chhavyrath 学校保健部副部長(右端)



香川大学が介入モデルとする Samdech Krompreah Norodom Ranariddh 小学校教頭先生と6年生の子どもたち

<ネイティブ教員による活動>

イングリッシュカフェでの取り組み

This semester, the English Café has held a number of workshops including "Discussing Current Events", "Word Play" and "Daily English". A new workshop called "English through Video" was introduced where participants watch a TED video and discuss the contents. Sessions for staff have been popular and have enabled staff to learn and practice business English in university settings while having their lunch.

A new weekly event called "Language Exchange Lunch" started, at which international students and Japanese students can share each other's language while having lunch together. This has proven to be very popular among international and Japanese students alike.

The English Café also hosted a game day event and farewell party for the international students.

In addition to the regular workshops, an orientation for TOEIC SW was held and workshops will be offered in the autumn semester to help students prepare for the test. Expect to see additional workshops and events from October, including the annual English Presentation Contest.

（インターナショナルオフィス Marc Anderson）



イングリッシュカフェの様子

インターナショナルオフィス新任教員紹介

皆さんこんにちは。

香川大学では、国際化の推進のため独立行政法人国際協力機構(JICA)との連携を強めており、共同して技術協力プロジェクトの実施や海外研修員の受け入れ等を行っていますが、それら事業の調整のため、本年4月にJICAより香川大学に派遣されました。JICAとの人事交流は私で2代目となります。

私は生まれも育ちも東京です。大学までは学校の教員を目指していましたが、どこでどう変わってしまったのか、1989年に青年海外協力隊の隊員としてアフリカのザンビアという国に派遣されて以来、アフリカにハマってしまって、気が付けばアフリカ大陸の中で訪問した国は30か国、アフリカ滞在期間は通算18年になってしまいました。今回も3月に帰国したばかりです。

アフリカにはいわゆる最貧国が多く、様々な開発課題を抱えているのは事実ですが、若い国が多く躍動感にあふれています。また、最近は急激な経済発展も進んできています。後期には「国際協力論」の授業を担当しますが、そういった開発途上国の実情を伝え、少しでも皆さんに興味を持ってもらえればと思っています。

仕事とは関係ありませんが、折角四国に赴任したので、4月から歩き遍路を始めました。現在室戸岬を回って高知市の30番札所善楽寺まで到達しています。毎日30キロ以上歩くのは大変ですが、今年中には足摺岬まで到達したいです。

(インターナショナルオフィス 野田久尚)



12番札所焼山寺にて



5月に派遣担当教員として着任しました、植村友香子です。前職は岡山大学で主に留学生の受入に関わる教育・支援に当たっていましたが、その前の約20年間、フィンランドのヘルシンキ大学で日本語講師を務めていました。私は生まれも育ちも高松ですが、高校卒業以来、数十年ぶりに地元に戻って腰を据えての生活となり、一から香川について学びなおしつつ、インターナショナルオフィスでの仕事に努めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

(インターナショナルオフィス 植村友香子)



マーク アンダーソンと申します。スコットランド出身で、2006年に来日しました。

これまで山口県と東京都内で英語教育・国際交流に関わる仕事をしてきました。その経験を活かし、香川大学で国際化に貢献したいです。

私はイングリッシュカフェに常駐しています。香川大学生の英語力を向上するために頑張っていきたいと思います。

また、さめきプログラムでは、日本料理の授業を担当しています。繊細で奥の深い日本料理の良さを多くの留学生に伝えたいです。

My name is Marc Anderson. I came from my home country of Scotland to Japan in 2006. Having worked in the field of English education and international exchange, I would like contribute to the internationalization of Kagawa University.

Based in the English Café, I will do my best to help the students of this university improve their English ability.

Also, I am in charge of teaching Japanese cuisine as part of the Sanuki Programme. I hope to convey the depth and delicacy of Japanese cuisine to international students.

(インターナショナルオフィス Marc Anderson)

留学生の声



Vichhey Nallさん(Cambodia)

Paying deep respect from a Cambodian! My name is Vichhey Nall! I was emotionally excited with such a great opportunity to be a part of the international students at Kagawa University in Japan. Even though I actually studied for a short semester, I absolutely rejoiced in studying and living in Takamatsu city. I predict some part of the reasons that you may want to know from me while I was living here. Those reasons could be my interactions with the people in Takamatsu city and also class performance but I will give you the details later.

Firstly, I enjoyed interacting with new people very much. That's why I am here, in the heart of different cultures of the Sanuki Program, in Japan. I had made a lot of friends with other exchange students such as from Thailand or Brunei and I felt like I stayed with my family in my home country. Sanuki citizens are faithfully kind and helpful when I needed help or even just asked them for information. Truth to be told, Sanuki citizens are truly shy, it is not very often that they will approach us but they are still helpful and kind to us, even they cannot speak English but they try their best to explain to us, especially foreign travellers. Of course, I did not have any problems during my exchange at Kagawa University. I really rejoiced in studying and enhancing my knowledge here in Kagawa University; all my friends in class are struggling with hardship and all my teachers are punctual with the high responsibilities of providing education. Moreover, I had a lot of fun in my lessons. All subjects that I had learned were fully beneficial for my personal improvement in order to apply to my future classes. I actually desire to study in Japan for long time but my deepest regret is absolutely not being able to study here for a full year.

On this occasion, I would like to express my deep thanks to Kagawa University for providing this opportunity to not only students who are outstanding, but students who are struggling with hardship to have the same chance to study. I also would like to express my deep thanks to the international office of Kagawa University and all members for doing hard work and putting a lot of effort to guiding me in the process of living and studying at Kagawa University.

Finally, I wish my friends who I made and my teachers have good health, happiness in their families and success in everything.

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第17号 2017年(平成29年).9.30

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1318 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>
留学生センターfacebook
URL : <http://www.facebook.com/KUISC>